

2月17日、教員基礎演習Ⅰの授業を見学して

社会福祉学部 学部長補佐 准教授
修士(文学) 堀 肇

本授業は、先週に引き続いて2回目の授業見学であり、前回に続いて「文学史」に関する問題で、問題と答えをしっかりと暗記することが何よりも重要である。

前回の授業見学では、単調になりがちな暗記問題をいかにして集中させて暗記させるかという点で、先生も苦心されていたが、少し余計なことを話しすぎていてテンポが悪く感じていた。

今回は総長先生の指導により、最初に前回の復習・暗記を10分間行わせることから始めた。これによって、学生の集中度が増したように思われた。次に、問題と答え、解説を読んで、ポイントを暗記させていたが、前回に比べて余計なことは話さず、繰り返し暗記の重要性を伝えており、学生も自分が何をすれば良いのかしっかりと理解し、暗記に取り組んでいた。

また、総長先生は、大事なことを問題のすぐ近くを書くよう指導されていた。試験勉強では、一つのテキストを繰り返し何度も、ボロボロになるくらい読み込む必要があるが、書き込みをすることによって、頭に残りやすく、後で見直したときにもポイントが掴みやすくなると感じた。

このように、暗記を徹底させるには、教員が学生の集中力を高め、暗記に集中できる雰囲気を作っていくことが重要なのである。教員が漫然と暗記をさせていると、次第に授業がだらけたものになり、つまらない授業になってしまう。こうなると試験勉強に対する意欲が沸いてこず、最悪の場合には資格を諦めてしまうことにもなりかねない。常に、学生に暗記の重要性を伝えつつ、暗記に集中できる雰囲気作りに教員は気を配らなければならないと感じた。

これまで総長先生の授業見学をさせていただいて、いつも感心させられるのは、普段われわれ教員が何気なく行っている指導一つひとつを、総長先生は丁寧に妥協せずに行っているということである。そうすることによって、授業全体が非常に中身の濃い充実した時間になり、学生にとっては疲れる授業でも、終わった後に学んだという達成感が得られるものになっているのである。これらの点について、われわれ教員はまだまだ不十分であり、学ばなければならないと強く感じた。今後も、総長先生の指導を踏まえ、学生の夢の実現に向けて邁進していきたい。